

秋田県における症候性先天性サイトメガロウイルス感染症の発生状況調査

1. 研究の対象

秋田県内で2012年4月1日～2022年3月31日に出生し症候性先天性サイトメガロウイルス感染症と診断された方。

2. 研究目的・方法

先天性サイトメガロウイルス感染症は最も頻度の高い母子感染症で、約300出生に1人と高率に発生しています。80～90%は出生時無症状ですが、残り10～20%は出生時から何らかの症状を有し、“症候性”先天性サイトメガロウイルス感染症と言われます。この症候性感染になると、90%の子どもが発達遅滞や難聴などの神経学的後遺症を残すと言われています。近年になり早期治療で後遺症を軽減できることがわかってきましたが、秋田県で年に2～3人発生している見込みの症候性先天性サイトメガロウイルス感染症児を目にする機会はほとんどなく、多くが見逃され治療機会を逸している可能性があります。しかしこれまで秋田県内で先天性サイトメガロウイルス感染症児に関する調査が行われたことはなく、実態はわかりません。本研究は症候性感染に焦点を当てて、秋田県内の発生状況および診療の現状を把握し、問題点を抽出することを目的とします。さらに将来的に症候性先天性サイトメガロウイルス感染症児を確実に拾い上げることのできる医療体制の構築につなげ、秋田県の後遺症を残す子ども達を少しでも減らしたいと考えています。

そのために、秋田県内で分娩を扱っている医療機関14施設の小児科に、以下の情報を問い合わせる調査します。（研究実施期間：研究実施許可日～2024年3月31日）

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報内容：出生年、性別、在胎週数、出生体重、診断契機、診断方法、合併症、脳画像検査所見、新生児聴覚スクリーニングの結果、抗ウイルス療法の有無および副作用の有無、発達・聴覚予後など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者

秋田大学大学院医学系研究科 小児科学講座 安達 裕行

連絡先：〒010-8543 秋田県秋田市本道 1-1-1 TEL 018-884-6159

【既存試料・情報の提供のみを行う機関】

秋田赤十字病院	新生児科	部長	新井 浩和
由利組合総合病院	小児科	科長	井上 雅貴
大曲厚生医療センター	小児科	科長	大村 映子
市立角館総合病院	小児科		小山 勝幸
雄勝中央病院	小児科	科長	菊地 済
秋田厚生医療センター	小児科	科長	久保田 弘樹
市立横手病院	小児科	診療部長	小松 明
能代厚生医療センター	小児科	科長	近野 勇樹
平鹿総合病院	小児科	科長	佐藤 陽子
市立秋田総合病院	小児科	科長	武田 修
大館市立総合病院	小児科	科長	丹代 諭
北秋田市民病院	小児科	副院長	野口 博生
中通総合病院	小児科	副院長	平山 雅士